

新たに「東山の町家」が加わりました

- ・研究会では、今年9月から寺町の町家、新町の町家に続いて東山の町家をお借りすることになりました。東山の町家は、元は材木商だった町家で、当時の姿を今に残しています。
- ・9月2日(日) 東山の町家のこけら落としイベントとして、昨年のクリスマスコンサートに続き、リュート奏者の高本一郎さんをお招きして、東山の町家でコンサートを開催し、約30名が参加しました。
- ・また、10月には町家に関する書籍や資料を集めた町家文庫も開設しました(町家文庫は新町の町家でも開設しています)
- ・今後は、金澤町家研究会の事務局としても活用し、週末には研究会員が駐在しますので、皆さまお気軽にお越しください。 駐車スペースはありません【住所】金沢市東山2-1-7(東山交差点近く) 東山の町家(右上)、リュートコンサート(右下)



町家見学ツアーを実施しました

- ・10月6日に町家で暮らしてみたい方、町家に興味がある方を対象に、金沢市内で購入・賃貸が可能な町家(4軒)の見学ツアーを実施しました。
- ・今回は残念ながら購入・賃貸には至りませんでした。研究会会員の職人さんや建築士の方から、町家の構造や意匠について詳しく説明していただいたことで、参加者の町家への関心が高まったようでした。



体験宿泊再開!

- ・昨年度好評だった「金澤町家体験宿泊」を再開いたしました。
 - ・新町の町家では、新たに町家文庫を開設したほか、自転車も利用できるようになりましたので、是非ご利用下さい。
- 《お問い合わせ先・お申し込み先》
FAX 076-263-6384
E-mail: machiyataiken@yahoo.co.jp
金澤町家研究会予約担当: 水野恵子

「寺町の町家」関連ニュース



- ・10月26日に桂三若さんの全国落語武者修行ツアーの一環として、寺町の町家で公演が開かれ、約40名の方にご観覧いただきました。
- ・また、11月11日には「謡とお茶を楽しむ会」が開かれ、町家の1階では金沢学院大学茶道部によるお茶会、2階では、金沢学院大学能学部による仕舞(4番)と、城南公民館の謡教室の生徒さんたちによる謡が披露されました。

シリーズ連載 ・地域資源を活かした賑わいづくり - 京町家まちづくりファンド -

- ・(財)京都市景観・まちづくりセンターでは、近年急速に失われつつある京町家の保存・再生・活用を促進するため、「京町家まちづくりファンド」を設立(H17.9.30)しました。このファンドは、国や京都市からの支援のほか、市民や企業等からの寄付を基金に積み立てており、その運用益によって、京町家の改修を助成したり、京町家に関わる事業を行っており、京町家にお住まいの方、京町家をお持ちの方の保全・再生・活用の取り組みを直接サポートしています。
- ・現在までに7軒の京町家が改修されています。 <http://machi.hitomachi-kyoto.jp/index.html>



寄付をもとに再生された京町家

加賀市町屋再生事業 見学会 H19.11.3(土)

- ・加賀市町屋再生事業(H18.4.1)は、総合的な住宅施策のための支援制度である「地域住宅交付金」を活用した事業で、公営住宅の建設を基幹事業とした提案事業として位置づけ、これまでに7軒の事業を実施しています。
- ・見学会当日にオープンを迎えた「アトリ工理」は、オーナーが加賀市町屋再生室へ物件の仲介を依頼してからオープンまで、数ヶ月というスピーディーな事業展開！このほか、福祉部門との連携により小規模多機能型居宅介護施設として再生するなど、多様な事例を見学させていただきました。



再生町屋第7号の「アトリ工理」
着物の展示販売や茶房を備えたギャラー



小規模多機能施設に再生された町屋

○見学会の感想 - 報告者：坂上ゆかり（研究会会員） -

旧大聖寺川沿いや町屋がまだまだ残る大聖寺の町並みは、とても風情があり、秋晴れの中、てくてく歩きながらの見学会はとても心地よいひとときでした。板葺きの庇、赤瓦屋根や棟瓦に^{しゃくだにいし}笏谷石が使われる等々、金澤町家とはまた違った趣きがあり、興味深く見させていただきました。大聖寺では、風情ある町屋をアトリエや小規模多機能施設など、上手く活かして使うオーナー（市民）とそれを支える行政との力が合わさり、活力あるまちづくりが進められていました。今後の加賀市町屋再生事業を楽しみに、元気ある大聖寺にまた訪れたいと思います。

金澤町家を想う・・・中村和代さん（金沢市東山在住）

今回は、ひがし茶屋街に隣接して、歴史的な佇まいを継承する町家にお住まいの中村和代さんからお話をお聞きました。

- 昔の姿がよく残されていますが、こちらの町家はいつ頃建てられたのですか。

約180年前の江戸時代に建てられたものだそうです。私は、昭和20年頃からこの町家に住むようになりました。20年ほど前の下水道整備に伴い、ミセノマを改造して台所とトイレを整備しましたが、その他は昔の姿を残しています。中途半端な改修は嫌ですし、思いきって建て直すお金がなかったのが幸いしましたね（笑）。この町家は、市のお世話で、国の有形登録文化財にも登録されていますが、何だか恥ずかしいので、プレートは土蔵にしまったままなんですよ。



江戸時代に建てられた町家
伝統的意匠をよく残している

- 町家住まいの良い点や、苦労されている点は。

“住めば都”と言うように、子どもの頃から暮らしているので、この空間が落ち着きますね。夏は涼しいですが、冬はとても寒いので、チャノマにこもっています。最近、建物の前後が少し下がってきたように感じるので、維持が不安ですね。

- まちなかでの暮らしはいかがですか。

近所には八百屋や魚屋などがありますので、そこで買い物しています。店側も注文を聞いてくれたり、配達もしてくれますので便利です。この周辺も一人住まいのお年寄りが多くなってきましたから。まちなかは、若い人には駐車スペースの関係で不便かもしれませんが、お年寄りには暮らしやすいと思いますよ。

- 研究会をはじめ、町家継承・活用の取り組みについて、どのようにお考えですか。

取りかかりが少し遅かったですね。梅の橋周辺でも、マンションが建ち並び、美しいまちなみが壊れてしまいました。戦後、日本は、新しいもの新しいものへと目が向けられていましたから。

最近になって、ようやく古い町家の価値が認められるようになって、この周辺でも町家がレストランなどに活用されているようです。この町家も、若い人からは“素敵なお宅ですね”と言ってもらっており、将来は、そうした町家の価値を分かってもらえる人に上手く活用してもらいたいと思っています。これから、若い人が中心となって、町家の保全に頑張ってもらいたいですね。

かなざわまちやけんきゅうかい
金澤町家研究会

【お問い合わせ】水野

〒920-0998 金沢市里見町 42-1-901 号

(有)水野雅男地域計画事務所内

E-mail mmasao@mb.infoweb.ne.jp

<http://webserv.ce.t.kanazawa-u.ac.jp/kawakami/machiya/index.html>